

問1 1868年、王政復古の号令によって政治の主導権を握った薩摩・長州らを中心とする勢力と、これに反発した旧幕府軍との間で発生した、一連の内戦の名称として適切なものはどれですか。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 戊辰戦争 2. 西南戦争 3. 下関戦争 4. 生麦事件

問2 明治維新时期に行われた新政府による改革の一つに「地租改正」があります。この制度の内容について正しく述べたものはどれですか。（2017年 秋田県公立入試 類似）

1. 土地の価格である地価を基準とし、土地の所有者である地主に、地租を現金で納めさせた。  
2. 土地の面積を基準とし、実際に収穫された米の量に応じた額を、農民に米で納めさせた。  
3. 全国の藩を廃止して府と県を置き、各地域の農民から直接、一律の金額を徴収した。  
4. 満6歳以上の男女に教育を受けさせる制度を整え、その費用を土地の面積に応じて徴収した。

問3 岩倉使節団が最初に訪れたアメリカ合衆国の当時の状況と、視察の目的について述べた文として最も適切なものを選びなさい。（2024年 茨城県公立入試 類似）

1. 南北戦争が終結して国家の再建が進むアメリカを訪れ、不平等条約の改正準備と諸制度の視察を行った  
2. 独立戦争の最中であったアメリカを訪れ、イギリスからの独立を支援するための軍事同盟を模索した  
3. 世界恐慌による不況に苦しむアメリカを訪れ、金本位制の導入に関する経済的な助言を求めた  
4. 第一次世界大戦後の国際連盟結成を前に、アメリカ大統領と平和条約の締結について協議した

問4 明治維新时期に行われた地租改正では、それまでの太閤検地以来の仕組みから、課税の基準と納税の方法が大きく変更されました。地租改正後の基準と方法の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 岡山公立入試 類似）

1. 土地の価値である「地価」を基準とし、土地の所有者が現金で納める  
2. 土地の面積を基準とし、耕作者が米で納める  
3. 毎年の収穫量（石高）を基準とし、土地の所有者が米で納める  
4. 村全体の人口を基準とし、村単位で一括して現金で納める

問5 地租改正の実施により、明治政府の財政運営はどのように変化しましたか。その仕組みの背景を含めて説明したものと最も適切なものを選びなさい。（2026年 福島公立入試 類似）

1. 地価を基準として現金で徴収する仕組みにより、豊凶に関わらず予算の見通しが立てやすくなった。  
2. 小作人に土地を安く売り渡すことで、自作農を増やして農業生産力を高め、税収を倍増させた。  
3. 収穫量に応じて税率を毎年変動させる仕組みを導入し、農民の負担を大幅に軽減させた。  
4. 土地をすべて国有化し、国民から一律に地代を徴収することで、身分制度の解体を進めた。

問6 徴兵令の施行に際し、当時の平民（農民など）の間で起きた反応や、その後の社会の変化について述べた説明として最も適切なものを選びなさい。（2026年 栃木公立入試 類似）

1. 労働力を奪われることへの反発から、各地で「血税一揆」と呼ばれる反対運動が起きた。  
2. 武士と同じ特権が得られると期待した農民たちが、自発的に軍へ入隊した。  
3. 戸主や学生などは徴兵を免除される規定がなかったため、全ての男子が平等に徴兵された。  
4. この法令によって士族の特権が守られたため、士族による反乱は沈静化した。

問7 1860年代の日本の歴史をまとめた年表において、徳川慶喜が政権を朝廷に返した「大政奉還」の直後に位置づけられる、天皇を中心とした新政府の樹立を宣言した出来事を選びなさい。（2018年 愛媛公立入試 類似）

1. 王政復古の大号令 2. 五箇条の御誓文 3. 版籍奉還 4. 廃藩置県

問8 明治政府が実施した地租改正において、それまでの江戸時代の年貢の納め方と比較して、税の基準と納入方法がどのように変更されたか、最も適切なものを選びなさい。（2026年 福岡公立入試 類似）

1. 土地の価格を基準とし、現金で納めるように変更された。  
2. 収穫高を基準とし、米で納めるように変更された。  
3. 土地の面積を基準とし、米で納めるように変更された。  
4. 収穫高を基準とし、現金で納めるように変更された。

問9 明治政府の有力者に関する説明として正しい人物を選びなさい。この人物は岩倉使節団の一員として欧米諸国を視察して帰国した後、政府内で対立した西郷隆盛らの「征韓論」に反対しました。その後、内務省を設置して初代の内務卿となり、日本の近代化を目指して殖産興業政策を強力に推進しました。（2016年 愛媛公立入試 類似）

1. 大久保利通 2. 木戸孝允 3. 伊藤博文 4. 板垣退助

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>戊辰戦争</b>	徳川慶喜が大政奉還を行った後、新政府が「王政復古の大号令」を出して天皇中心の政治に戻すことを宣言したことに旧幕府軍が反発し、鳥羽・伏見の戦いから始まる一連の戦争へと発展しました。1868年から翌年にかけて続き、最終的に新政府軍が勝利したことで、明治政府による全国支配が確立されました。
問2	<b>答え 1</b> <b>土地の価格である地価を基準とし、土地の所有者である地主に、地租を現金で納めさせた。</b>	明治政府は近代国家を運営するための安定した財源を必要としていました。それまでの収穫量に応じた米による納税（年貢）から、土地の価値（地価）に応じた現金による納税へと変更したのが地租改正です。これにより、豊作や不作といった自然条件に左右されることなく、政府は毎年一定の税収を確保できるようになりました。選択肢にある藩の廃止は「廃藩置県」、教育制度は「学制」に関する記述です。
問3	<b>答え 1</b> <b>南北戦争が終結して国家の再建が進むアメリカを訪れ、不平等条約の改正準備と諸制度の視察を行った</b>	岩倉使節団が1871年にアメリカに到着した際、現地は1865年に南北戦争が終結した後の再建期にありました。使節団は江戸時代に結ばれた不平等条約の改正を打診しましたが、日本の国内法が未整備であることを理由に拒否されました。この経験から、使節団は条約改正よりも先に、日本の政治・産業・教育などの近代化を急ぐ必要があることを痛感しました。
問4	<b>答え 1</b> <b>土地の価値である「地価」を基準とし、土地の所有者が現金で納める</b>	江戸時代の年貢は、豊臣秀吉の太閤検地以来、収穫量を基準（石高）にして米で納める「物納」が基本でした。明治政府は近代国家の財政を安定させるため、土地の所有権を認めて「地券」を発行し、収穫量ではなく土地の価値である「地価」を基準に、定額の現金を納めさせる「金納」へと改革しました。
問5	<b>答え 1</b> <b>地価を基準として現金で徴収する仕組みにより、豊凶に関わらず予算の見通しが立てやすくなった。</b>	地租改正の大きな目的は、国家予算を安定させることでした。基準を「地価」という固定的な値にし、納税を「現金」としたことで、農作物の価格変動や収穫量の増減に政府の収入が左右されなくなり、近代国家としての計画的な財政運営が可能になりました。なお、小作人への土地の売り渡しは第二次世界大戦後の農地改革の説明であり、地租改正の内容とは異なります。
問6	<b>答え 1</b> <b>労働力を奪われることへの反発から、各地で「血税一揆」と呼ばれる反対運動が起きた。</b>	当時の平民にとって、働き手である男子を軍隊に取られることは生活上の大きな負担でした。また、徴兵を呼びかける「徴兵告諭」の中にあつた、体を使って国に尽くすことを意味する「血税」という言葉を、本物の血を抜かれると誤解した人々による「血税一揆」も発生しました。なお、当初は戸主や学生などを対象とした免除規定が存在していました。
問7	<b>答え 1</b> <b>王政復古の大号令</b>	徳川慶喜は大政奉還を行うことで、徳川家が引き続き政治の実権を握ろうとしましたが、これに対抗した岩倉具視や薩摩藩・長州藩の勢力は、天皇を中心とする新しい政府の樹立を宣言しました。これにより、鎌倉時代から約700年続いた武家政治の終わりが明確に示されました。
問8	<b>答え 1</b> <b>土地の価格を基準とし、現金で納めるように変更された。</b>	明治政府は、政府の収入を安定させるために地租改正を行いました。江戸時代の年貢は「収穫高」に応じた「物納（米など）」であったため、豊作や凶作によって政府の収入が変動していましたが、土地の所有者に「地価」に応じた「現金」を納めさせる仕組みに改めることで、天候に左右されない安定した財政基盤を確立しようとしたのです。
問9	<b>答え 1</b> <b>大久保利通</b>	岩倉使節団で欧米の圧倒的な国力を目の当たりにした大久保利通は、当時の日本にとって最優先すべきは外交問題（征韓論）ではなく、内政の整備と産業の育成（殖産興業）であると考えました。彼は内務省を創設して事実上の政府トップとなり、富国強兵に向けた基盤を築きました。